固定運動遊具による幼児の遊びの発達についての実験的研究（5）

――幼児はどんな固定運動遊具を好むか――

岡本卓夫

〈目　的〉

幼稚園や保育所における遊具の興味に関する調査や研究は、今日どこまでいってもなされている。だが、それらの中には、例えば、自動車、人形、積木、すべり台、ぶらんこなど、子どもたちがつかう遊具全般を同時に比較したものが多く、分析的に取りだしておるものは非常に少ない。

かようなことから、この調査は、それらの中、とくに、固定運動遊具のみを摘出し、それらの好き嫌いを、年令別・性別に、発達にしたがって比較検討しようとするものである。

〈方　法〉

一、調査項目とその方法

㈠　毎日午前九時現在における固定運動遊具使用者数の調査（日曜・祭日、雨天除外）

これに関しては、ひとりの教師で一～二種の遊具の使用人数が調査できるように、それぞれ分担を決め、毎日前記の時間に調査し、記録用紙に記入していった。なお、その時、遊具を直接使用していなくても、順番を待っているとか、今その遊具で遊ぼうとしているなということが明らかにわかる場合には、その遊具の使用者とみなした。

㈡　自由時間（午前一〇時～一〇時三〇分）における一五分間の固定運動遊具使用状況を、個別に調査（日曜・祭日、雨天除外）

これに関しては、第一表に示す如き記録用紙を作製して記入していった。

二、調査期日　項目㈠…昭和三二年一一月一日～一二月五日
項目㈡…〃　〃　一一月一日～三〇日

第 1 表

氏名　A　　満年令5才0か月　　性　男

遊具＼時間	鉄棒	ぶらんこ	すべり台					その他 お山	三輪車	走り回る	→	遊具＼時間
1分												1分
2分												2分
3分												3分
13分												13分
14分												14分
15分												15分
(分)計	0.5	1.0	1.5					0.5	1.0	0.5		(分)計

三、調査場所　徳島市内左記幼稚園

項目(一)…Fs、Uc、Si幼稚園

項目(二)…Si、Su、To、Sy幼稚園

四、調査人員

第2表

年令＼性＼項目		(一)	(二)
四才	男	46	30
	女	33	30
五才	男	132	30
	女	138	35
六才	男	103	34
	女	123	37

〈結果の整理と考察〉

次頁の第三表は、昭和三二年一一月一日から二〇日間の前記項目(一)幼稚園における午前九時現在の固定運動遊具使用者の数を、その在籍園児数との割合で、年令別、性別に示したものであり、第四表は、同年一一月一日から三〇日までの間に、前記項目(二)幼稚園における朝の自由時間（一〇時～一〇時三〇分）を利用し、園児ひとりについて、一五分間ずつ戸外で遊ばせ、その自由遊びの状態を観察し、その中、固定運動遊具の使用時間を、使用者の平均時間で、年令別・性別に示したものである。

これらの結果から、この期の幼児が、どんな固定運動遊具を、どのように好んでおるかを考察していきたい。

(一) 鉄棒

(男児) 第三表に示す如く、四才、五才、六才と全般的にその使用率は低調であるが、年令の進むにつれて高くなり、とくに六才になると急激に増加している。これは、彼らの懸垂力の増加および活動の活発性に起因しているのではないかと思われる。

また、これを使用時間からみると、第四表に示す如く、年令の進むにつれて、僅かずつ増加はしておるものの、五才と六才の差は、使用率のそれほど顕著ではない。このことは、彼らが、六才になって、鉄棒をより多く使用するようにはなるが、まだ巧緻性が活動力や懸垂力にともなわず、したがって、ちょっと鉄棒で遊んでは走り回ったり、存分に活動できる他の遊具に移っていったりする結果か

第 3 表　午前9時現在における平均使用人数（%）

遊具名＼年令・性	4才 男	4才 女	4才 平	4才 順	5才 男	5才 女	5才 平	5才 順	6才 男	6才 女	6才 平	6才 順
鉄棒	0.8	3.2	2.0	3	0.9	3.8	2.4	3	1.8	5.2	3.5	6
すべり台	1.5	1.0	1.3	4	3.7	2.0	2.9	2	14.5	2.9	8.7	2
ぶらんこ	3.6	6.9	5.3	1	3.5	6.1	4.8	1	19.4	12.6	16.0	1
シーソー	0.2	0.5	0.4	7	0.5	0.5	0.5	8	2.5	0.8	1.7	8
ジャングルジム	0.9	1.2	1.1	5	1.6	1.5	1.6	4	10.1	7.0	8.6	3
太鼓橋	0.9	0.7	0.8	6	1.0	1.2	1.1	6	9.2	5.1	7.2	4
雲梯	0.5	0	0.3	8.5	0.5	0.3	0.4	9.5	2.8	3.2	3.0	7
遊動橋	3.8	5.0	4.4	2	0.6	1.1	0.9	7	0.9	1.1	1.0	10
回転台	0.5	0	0.3	8.5	1.2	1.4	1.3	5	1.5	6.8	4.4	5
固定円木	0	0	0	10.5	0.3	0.5	0.4	9.5	1.3	1.8	1.6	9
はん登棒	0	0	0	10.5	0	0	0	11	0	0	0	11
その他	87.3	81.5	84.4		86.2	81.6	83.9		36.0	53.5	44.8	

第 4 表　15分間における平均使用時間

遊具名＼年令・性	4才 男	4才 女	4才 平	4才 順	5才 男	5才 女	5才 平	5才 順	6才 男	6才 女	6才 平	6才 順
鉄棒	2′55″	2′17″	2′36″	4	3′06″	5′19″	4′13″	3	3′36″	6′10″	4′53″	4
すべり台	3′57″	3′34″	3′46″	3	5′36″	4′38″	5′07″	2	9′02″	5′00″	7′01″	2
ぶらんこ	5′04″	7′41″	6′23″	1	6′25″	9′11″	7′48″	1	9′02″	7′50″	8′29″	1
シーソー	1′51″	2′08″	2′00″	6	1′50″	2′42″	2′16″	8	1′00″	3′00″	2′00″	8
ジャングルジム	3′00″	1′45″	2′23″	5	2′40″	4′30″	3′35″	5	3′30″	6′54″	5′13″	3
太鼓橋	1′45″	1′00″	1′23″	8	3′39″	4′00″	3′50″	4	3′42″	5′30″	4′36″	5
雲梯	0	0	0	10	2′30″	0	1′15″	10	2′50″	0	1′25″	10
遊動橋	4′30″	5′18″	4′54″	2	2′50″	3′30″	3′10″	6	2′30″	1′11″	1′51″	9
回転台	2′30″	1′00″	1′45″	7	3′10″	2′00″	2′35″	7	4′34″	3′10″	3′52″	6
固定円木	0	0	0	10	0	3′00″	1′30″	9	1′10″	4′54″	3′02″	7
はん登棒	0	0	0	10	18″	0	9″	11	30″	22″	26″	11
その他	12′48″	12′45″	12′47″		12′05″	11′28″	11′47″		11′14″	10′59″	11′07″	

らではないかと思う。

（女児）第三表に示す如く、女児は、全般的に男児よりその使用率が高く、年令とともに増加し、やはり男児と同様六才になって使用者が急激に増加している。これらのことは、全般的に女児の方が巧緻性に富み、とくに六才頃には、相当器用さが増加してくるのではないかということと、男児の如く、この年令になって、懸垂力が増加することなどがその主なる原因になっているのではないかと思う。

また、これを使用時間からみると、第四表に示す如く、五才頃から急に増加し、男児の使用時間よりはるかに多い。もちろん、両者の巧緻性の差に起因するところがあるとは思うが、このころから男児の活動が活発となってきて、ぶらんこやすべり台などを独占してしまう子どもなどがでてき、女児はそれらで遊べなくなるから、自然、鉄棒などで遊ぶよ

うになるという現象も一応考えられる。

全体的にみるに、この遊具での使用人数、使用時間は、共に年令の進むにつれて増加している。しかして、とくに女児は、男児よりこの遊具を好んで使用しておる。

(二) すべり台

(男児) 第三表に示す如く、その使用率は、全般的に高く、年令の進むにしたがって増加している。これは、男児がもともと活動的であることや六才頃になると運動能力が相当高くなるから、自然、活動がじゅうぶんでき、しかも自分の能力が試せるスリルあるこれでの遊びを好むようになることなどが主なる原因ではあるまいか。

また、これを使用時間からみると、第四表に示す如く、やはり全般的に高く、六才になって急激に増加している。この傾向も前記の場合と同様に考えられる。

(女児) 第三表に示す如く、年令とともにその使用率は漸次増加しているものの、全般的に男児より低調である。これは、その運動技能においては男児と大差ないが、恐怖心の強いことや元来おとなしいこと、それにもまして、男児が、活動的、活発で荒々しいので、そのため、女児は、この遊具で安心して男児と一しょに遊べない。したがって、男児にじゃまされない他の遊具に移るということが考えられ、それによって男児より低調と考えられる。

また、これを使用時間でみると、第四表に示す如く、年令とともに増加はしているものの、やはり全般的に男児より低調である。この理由も、前記の場合と同様に考えられる。

全体的にみて、この遊具での使用人数、使用時間は、共に年令の進むにしたがって増加している。しかして、男児は、女児よりこの遊具を好んで使用しておる。

(三) ぶらんこ

(男児) 第三表に示す如く、その使用率は、各年令とも非常に高く、とくに六才になっては、著しく増加しておる。これは、四才児なんかでは、腰かけて少し体をゆすぶれば、簡単にゆれるし、多くは、ひとりのりぶらんこだから他の子どもに邪魔されることもなく、しかも、自分の力相応にゆっくりゆれて、安全でおもしろいというようなぶらんこの特殊性から、だれにでも好まれているものと思う。また、六才くらいになっても、自分ひとりだけで思ったようにゆれるし、加うるに、この頃から協応運動 Coordinated movement が発達してくるので、あるいは大きくゆったり、立ってゆったり、あるいはゆってとびだしたりするなど、自己の運動能力やスリルをじゅうぶんに満足させることができるから、かような高い使用率を示したものと思う。

また、これを使用時間でみるに、第四表に示す如く、各年令とも非常に多く、その発達的傾向は、ほとんど前記使用率に似ており、したがって、それのよって起因するところも大体同じだと考える。

(女児) 第三表に示す如く、その使用率は、男児と同様各年令とも非常に高い。この原因も男児の場合とほぼ同じだと思うが、四才、五才で男児より高いというのは、ひとりで自分の思ったように適度にゆれて安心だということが、とくに女児の性格にマッチして

いるからであろう。六才においても、同じことが考えられるが、この年令になって、とくに男児が進出してきて独占される率が多くなるから、多少低下しているのではなかろうか。それでも、すべり台の場合における男・女差と比較すると、著しくその差が少なく、このことからでも、だれにも邪魔されず、ひとりで適度にゆれるというぶらんこの特殊性が、女児の使用率の高さをものがたっていると思う。

また、これを使用時間でみるに、第四表に示す如く、やはり使用率の場合と同じ傾向を示しており、したがって、それの起因するところも同様だと考える。

全体的にみて、この遊具の使用率、使用時間は、共に年令の進むにしたがって増加しており、男・女をとわず非常に愛好されている遊具といえる。

(四) シーソー

(男児) 第三表に示す如く、その使用率は、年令とともに高くなり、とくに六才になって増加している。これは、彼らの活動が活発になってきたからと思うが、これを使用時間でみると、第四表にも示す如く、逆に年令とともに低下している。

この原因は、元来、シーソー遊びでは、相手を必要とするのであるが、男児は活動が活発となってきて、ひとりで走り回る機会か多くなり、すぐに相手ができないということや、上下動程度では、活動意欲をじゅうぶん満足させてくれないということなどから、遊んでもすぐにあきて、他の遊具にうつっていくからではないかと思う。

(女児) 第三表に示す如く、その使用率は、各年令を通してほとんど変化なく、男児よりやや低調な感じはするが、これを使用時間でみるに、第四表に示す如く、各年令とも男児より多く、年令の進むにつれて僅かではあるが増加している。

これは、女児が一般に仲間とつれだって遊ぶ機会が多いことや、互にコントロールし合って遊べ、動きが単調ではあるが、比較的安全で、男児に邪魔されることも少ないということに起因しているのであろう。

この遊具は、男児より女児に好まれているという性差はあるにしても、概して低調で、全体として余り好まれてはいない。これは、前記の如く、これでの遊びは、人数か制限され、その上、動きが単調で、しかもコトン・コトンと頭や体にひびくことなどが原因しているからではないかと思われる。

(五) ジャングルジム

(男児) 第三表に示す如く、その使用率は、年令とともに増加し、とくに六才になっては急激に増加している。これは、元来、ジャングルジムが、使用者の動きを変化させるような構造になっているので、協応運動の発達と相まって、彼らに興味深く使われるということや、あるいは上にあがって優越感を満足させること、さらには社会性の発達から、みんなで遊べる遊具として好まれるなどがその主なる原因ではなかろうか。

また、これを使用時間でみるに、第四表に示す如く、各年令ともに大差はない。これは、四才児なんかでは、ひとりで勝手に下段にあがって遊べるということ、六才児では、少し活動性に乏しいとい

うことなどが原因しているのではあるまいか。

（女児）第三表に示す如く、その使用率は、男児と同様の傾向を示しているが、これを使用時間でみると、第四表に示す如く、五才頃から急に男児より長くなっている。これは、この頃から女児が男児より巧緻性や社会性に富んできだし、変わった遊びやみんなで遊びができるようになるからではないかと思う。

全体的にみて、この遊具は、年令の進むにつれて愛好される遊具であり、とくに女児においては、五才頃から好まれる遊具である。

（六）太鼓橋

（男児）第三表に示す如く、その使用率は、ジャングルジムと同様の傾向を示しており、したがってその理由もほとんど同様と考えられる。これを使用時間でみると、第四表に示す如く、五才頃から僅かに長くなっている。これは、男児の多くが上にあがって遊ぶ傾向があり、それが太鼓型になっているから、下りにくいということも原因しているのではないかと思う。もちろん、四才児はほとんど上にもあがれないから時間も少ない。

（女児）第三、四表に示す如く、その使用率、使用時間ともジャングルジムの場合と同様の傾向を示しており、したがって、その理由もほとんど同じだと考えられる。

全体的にみて、この遊具は、ジャングルジムと同様、年令とともに愛好される遊具といえよう。

（七）雲梯

（男児）第三表に示す如く、全般的にみてその使用率は低調である。六才になって高くなっているのは、この頃、懸垂力が増加してくるので、ぶらさがってみようかという子どもがでてくるからではないかと思う。だが、使用時間でみると、第四表に示す如く、六才になってもさほど顕著ではない。一般に、この遊具は、懸垂力や腹筋力がなくては遊べないし、その上、手のひらが痛くなるので、かかる理由が、あまり使われない原因になっているのではないかと思う。

（女児）第三表に示す如く、その使用率は、男児と同様低調である。六才で高くなっているのも男児の場合と同様に考えられる。だが、使用時間でみると、われわれのこの調査においては、各年令とも全く遊んでいない。これは、男児の場合にのべた如き理由や原因から、この調査の時に使用されなかったのであろう。

要するに、この遊具は、この期の幼児にあまり好まれない遊具だといえよう。

（八）遊動橋

（男児）第三表に示す如く、その使用率は、とくに四才で高く、五才、六才と急激に低下している。これは、この遊具が低いので腰かけ易く、しかもゆれが小さいから、年少の子どもに好かれるのではないかと思う。だが、年令の進むにつれ、活動が活発になると、これでは満足せず、したがってその使用率も低下してくるのではないかと思う。中には、これで相当遊ぶ子どももおるが、四才児と比べると、その数はきわめて少ない。

また、これを使用時間でみても、第四表に示す如く、四才児が長

く漸次低下している。この理由も前記の場合と同様に考えられる。

（女児）女児の場合も、第三、四表に示す如く、男児のそれとほとんど同じ傾向を示し、したがって、その理由も同様だと考える。

要するに、この遊具は、四才児には愛好されるが、年令の進むにつれて、それ程は使われない遊具といえよう。

（九）回転台

（男児）第三表に示す如く、その使用率は、年令とともに高くなっている。これは、彼らの活動がだんだん活発になり、回るものにも興味をもってくるからであろう。これを使用時間でみても、第四表に示す如く、同じ傾向を示し、これもやはり同じ理由に起因しているものと考える。

（女児）第三表に示す如く、その使用率は、四才では全く使われていないが、六才になると急激に高くなっている。すなわち、この頃に、女児が男児よりも回転するものに興味をもちだすのではないかとも考えられるが、これを使用時間でみると、第四表にも示す如く、年令とともに漸次長くなってはいるものの、六才においては、使用率のそれほど差は顕著でない。これは、目が回るので、一種の恐怖心が原因しているのではないかと思う。要するに、女児では、たびたび使うが、持続時間は長くないということがいえよう。

全体的にみて、この遊具は、年令とともに比較的愛好されるようになる遊具といえよう。

（一〇）固定円木

（男児）第三、四表に示す如く、その使用率は、年令とともに漸次高くなってはいるが、全体的にきわめて低調である。これは、遊具が低い故、地面と同一視され、それで興味を感じないのかもわからない。

（女児）ところが、女児においては、その使用率こそ男児の如く低調ではあるが、第四表にも示す如く、その使用時間では、五才～六才にかけて男児より相当長くなっている。これは、この期の女児が、平衡感覚にすぐれている故、この遊具に興味をもつようになるからであろうと思う。

要するに、この遊具は、五、六才の女児を除いては、余り好まれない遊具といえよう。

（一一）はん登棒

第三、四表に示す如く、この遊具は、いずれの年令、性をとわず、全く使用されない遊具といえよう。使用時間の調査で、五才、六才に僅か使用した子どもがいるが、これは、この調査をした時の時間的ずれ（項目㈠は九時、項目㈡は一〇時～一〇時三〇分）からきているのではないかと思う。

〈結　論〉

以上のことから、彼らの遊具の好き嫌いをいろいろな立場からまとめてみる。

(一) 発達に応じて興味が変動していく遊具

第5表

好まれていく遊具	鉄棒、すべり台、ぶらんこ、ジャングルジム、太鼓橋、回転台、固定円木
嫌われていく遊具	遊動橋
低調なまま変動しない遊具	シーソー、雲梯、はん登棒

(二) 性差による好き嫌い

第6表

男児に好まれる	すべり台
女児に 〃	鉄棒、シーソー、固定円木

(三) 綜合的に見た好き嫌い

第7表

好まれている遊具	ぶらんこ、すべり台
嫌われている遊具	はん登棒、雲梯

(四) 年令別による好き嫌い (第8・9・10表)

(五) 使用状況の全体的傾向

1、使用率は、四才、五才で全体の二割弱、六才になると、男児が六割強、女児が五割弱できわめて高くなる。

2、使用時間は、年令的にあまり変化かない。これは、例えば、遊動橋とぶらんことの関係の如く、一方の時間が多い時は、他方が少なく、反対に一方が少なくなると他方が多くなるというようなことや、六才児が遊具になれてくること、さらに、彼らの活動がスピーディーになってくるから、使用率の割に時間はあまり長くならないということなどが原因していると思う。

以上の如く要約してみたが、これらの使用状況は、季節とか天候あるいは遊具の数、大きさ、その配置など、いろいろの条件に支配されるので、これだけの資料から結論をだしつくすことはできないと思っている。だが、これらの状態から、おおよその見当をつけることは可能でないかと思われる。

最後に、この調査に御協力いただいた各幼稚園の諸先生がたに対して、深い感謝を捧げます。

(徳島大学)

第8表 4才児

	男	女
好き	ぶらんこ、遊動橋	ぶらんこ、遊動橋
嫌い	はん登棒、固定円木	はん登棒、固定円木

第9表 5才児

	男	女
好き	ぶらんこ、すべり台	ぶらんこ、鉄棒
嫌い	はん登棒、固定円木	はん登棒、雲梯

第10表 6才児

	男	女
好き	ぶらんこ、すべり台	ぶらんこ、ジャングルジム
嫌い	はん登棒、固定円木	はん登棒、雲梯

註 第8表〜第10表までに示した好き嫌いの遊具はいずれも上位および下位の二種類である。